

広島国際学院高等学校

同窓会報

【第3号】
 2002年6月1日発行
 発行者
 広島国際学院
 高等学校同窓会
 (旧広島電機大学附属高校)
 広島県安芸郡海田町
 蟹原2-8-1
 TEL 082-823-3401
 印刷/山五青写真工業
 株式会社
 TEL 0834-32-1234

課題を克服し

同窓会・学園の発展を願う



同窓会会長 岡田 民男

員の方々の同窓会へのご協力とご理解が欠かせない所であり、
 尚、目前の課題は次の通りであります。

会員名簿について

同窓会会員の皆様、「光陰矢の如し」という言葉がありますが、時間の過ぎるのは早いもので、会報発刊から早三年となりました。この「同窓会報」が関係各位の絶大なるご尽力のもとに継続して発行できることは誠に喜ばしく、感謝に絶えません。

同窓会の第一の目的は同窓生(卒業生会員)が一堂に会する場を絶えず提供出来るようにすることではないかと心得ます。

従ってそれを維持するためには会が活性化し、その機能を持ち続ける必要があります。

そして第二には、母校及び在校生への物心両面の応援が充分に出来ることでもあります。

同窓生会員相互の消息が気になることとあり、ある程度定期的に発行する必要があります。平成七年教職員を含めた卒業生全員の総合会員名簿を作成し、有償配布致しましたが、これまではそのサイクルを五年とし改訂版を発行し続けてきましたが、住所変更、消息周知等のメンテナンスが充分に出来ない状況と、経費問題もあり、そのサイクル変更も余儀なくされております。

一、住所変更に伴うメンテナンスの方法

一、経費の捻出

一、名簿発行周期の適正化

等々、このような課題を克服して行かなければなりません。

会員諸兄の皆様には、事務局、編集委員、常任幹事までご一報下されば幸いに存じます。

(昭和三十年・電気科卒)

紙一枚の重み

第五代校長 定本 広文

【歴代校長随想】
 目の前に今、B5判のコピーが九枚綴つてある。

当時の学園本部人事課長が、全職員の履歴書を手書きで纏められた労作で、私個人用のものだ。仕事とはいえども大変な事で、私の人生の勤務先とその時の発令庁や給与などが書いてある。

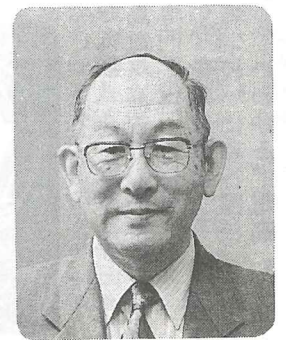
中等学校・女学校用の文部省からの免許が新制度に切り替えられた高等学校二級、中学校二級、小学校仮免許状(番号は略)以後からのものである。

教職を目指した私は、この紙一枚で何度救われたかもしれない。東京都立杉並工業高校教諭(七級俸当分八十円給与・東京都)を振り出しに広島電機学園まで、通算で五十二年。

そのうち学園では高校に昭和三十一年の一年間を講師。ここで一枚の免許状が生きて広島電機高等学校教諭となり高校に二十一年間、短大・大学で二十二年、合計四十二年間もお世話になった。人生の大半をこの学園で過ごさせて頂いた。

ここに別な一冊の本がある。昭和五十二年十月二十五日に発行した「学園五十年の軌跡」だが、頁270から頁394までの高等学校に関する歴史的な推移を見てほしい。

きつと同窓生諸氏もそれぞれの立場で思い出す事があると思う。その中で昭和四十八年からの四年間、私が第五代校長として九年間の教頭から繰り上がった。繰り上がったと言っても本校では最初の公選制度での結果である。



いろいろな事がこの間にはあった。楽しい事もあったが、寅さん映画の「男はつらいよ」ではないが「校長はつらいよ」の実感は大いにあった。

安芸郡海田町に移って昭和二十一年に授業を再開しての想い出話のひとつ(降りかけめし)のこと。一階で食事をしてると二階天井の隙間から砂が降るといふ木造校舎も立派になった。

昭和四十一年には三〇〇三名のマンモス学校になったが、歴史を辿る中で避けて通れぬ出来事に公立移管問題がある。中学卒業生が全国的に見て減少の傾向になるときにもあたり、昭和四十年頃には一二〇〇名もあつた入学生が減少し始めた。特に工業系が減り始め、普通科へ転換の時代となった。

ホームページと広報誌のご案内

学校法人・広島国際学院には大学、自動車短期大学、高等学校があり大学のホームページは「www.hkg.ac.jp」です。

すべてがアクセスでき、大学では学部の紹介から交通案内、受験生への入試情報、学園の紹介、クラブ活動などが網羅されています。

我々の高校は大学のホームページでもアクセスできますが、単独で「www.hkg.ac.jp」でも取り出すことが出来ます。



傾向になるときにもあたり、昭和四十年頃には一二〇〇名もあつた入学生が減少し始めた。特に工業系が減り始め、普通科へ転換の時代となった。学園運営の面でも苦しい時代が続き、授業料値上げ反対から授業放棄もあつて校長の肩に責任が掛かるのは当然。あまり書きたくない気持ちだが「願により校長の職を免ずる」と書いてある一枚の紙で当時の短大へ移ったが、あとはご存知よりの通りである。

別の事だが、約五十年間続けた趣味の川柳で第十六回国民文化祭(平成十三年・群馬県)で思いがけぬ一位となつて、広島県民では初めての文部科学大臣奨励賞という大きくて重い！一枚の紙を頂いた。

本当に紙一枚の重みには、それぞれに悲喜こももなものである。(昭和四十八年〜五十二年在任)

高校の内容は、同窓会総会・懇親会のご案内をはじめ進学先、就職先の一覧、クラブ活動や大会の成績、文化祭や行事、修学旅行の様子まで幅広く紹介されています。是非早速アクセスして見て下さい。

また、タイトルの学院広報誌は大学・短大・高校をまとめたものが年四回(一・四・七・十月)大学の広報部より発行されています。昨年七月発行の広報誌には、母校学院高校の特集記事が載っています。

この広報誌は同窓会にも提供して頂いていますので、ご希望の方は同窓会事務局へご一報下さい。無償でお送りいたします。

根木画伯の絵画

母校玄關ロビー
—陸上部出身のOB—

昭和三十五年、全国高校駅伝大会に広島電機高校が広島県代表として出場しました。

優勝候補として注目され、四区間とも区間賞を取りながら優勝は逃しましたが、堂々の五位入賞を果し、その大会でマラソン選手として健脚を競い貢献したひとりが根木達展(ネギサトノブ)氏です。

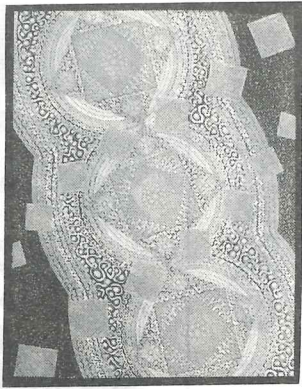
在校時は機械科自動車コースを専攻し、昭和三十六年卒業と同時に、国鉄(現JR)に就職し陸上部でも活躍、その後独学で絵画を勉強し数々の賞を受賞・入選を果し現在も精力的に力作に取り組んでいます。

この度その根木氏より、母校玄關ロビーに七十号の抽象画大作が寄贈されました。

又、一〇〇号の絵画を国際学院大学の学生会館(工学部)へ、もう一枚を現代社会学部へそれぞれ寄贈されています。

母校・高校と合わせ、是非一度お立ちの上へ鑑賞下さい。

根木達展氏寄贈の抽象画



主な賞歴・作品歴は：
【六七年】第十九回広島県美術展入選
【六九年】第一回広島青年アンデパンデン展(県立美術館)及び第三回・五回と出展。

【七一年】第六回国鉄美術展で国鉄美術会賞受賞

【七二年】第四六回国画会展入選(東京都美術館他)以後七六年まで入選、グループ「目」五人展(ピカソ画廊・広島)出展

【九九年】第五十一回広島県美術展で優秀賞受賞、第六回公募「広島美術」入選・佳作受賞

【〇〇年】第十五回国民文化祭・ひろしま二〇〇〇美術展II佳作入選

※住所は東広島市高屋町 小谷1293

同窓会役員紹介

皆様の代表として
頑張っています!

下表に掲げる平成十三年度の同窓会役員を紹介しますが、現役員は昨年の総会において承認され、それぞれの役職(任期一年)に精勤されています。

特に岡田会長は連続七期に亘り同窓会を支えて頂いております。

松電(マツデン)産業(株)の社長としてご多忙の中、国際学院理事として学園の運営にも当たられ、同窓会の役員会・幹事会は勿論のこと、母校入学式や卒業式をはじめ各種イベントにも精力的に参加されています。

そして会長を補佐する友岡・竹内・住田副会長、母校にある会の中枢となる事務局・村上事務局長をはじめ書記、会計、監査、常任幹事、卒業年度代表幹事各役員の並々ならぬご努力により、同窓会が運営されています。

しかしながら、同窓会は会員皆様のものであり、ひとりでも多くの方々に参加して頂き、皆様と共に運営されるのが一番望ましいこととあります。

我々はその歴史の重みを誇りとして会員相互の絆を深めていくことが寛容ではないでしょうか。

広島国際学院高校同窓会 現役員紹介

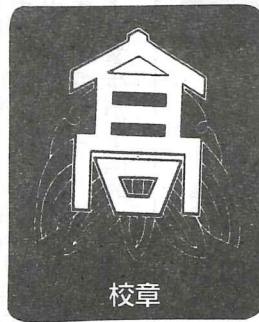
会長	岡田民男 (昭和30年電気科卒)	松電産業(株) 代表取締役
副会長	友岡文夫 (昭和29年電気科卒)	
	竹内正彦 (昭和34年機械科卒)	(株)テクノ自動車学校代表取締役
	住田朋一 (昭和36年機械科卒)	(株)住田機械製作所代表取締役
幹事長	杉原弘皓 (昭和34年電気科卒)	
事務局長	村上範美 (昭和36年機械科卒)	広島国際学院高校・教諭
書記	京才 昭 (昭和37年機械科卒)	(株)アド・キョウサイ代表取締役
	土居 茂 (昭和41年電気科卒)	広島国際学院高校・教諭
	三宅良彦 (昭和40年機械科卒)	広島国際学院高校・教諭
	木谷俊秀 (昭和31年機械科卒)	
	久保一彦 (昭和40年機械科卒)	広島国際学院高校・教諭
計査	その他・常任幹事及び卒業年度代表幹事	
監		

来年度同窓会総会・懇親会
平成十五年六月十四日
(第二土曜日)に決定!

懐かしい校章の歴史

|| 帽子と胸に残るもの ||

一九二七年(昭和二年)母校の前身である「広島高等予備校」が設立されました。
三年後「広島高等学院」を併設し、両校には文化・理科・法学・商学・満州語・英語・電気・電工科など教科も新設、併設、廃止と時代により変遷を繰り返しました。
当時の校章は左記の様なものでした。



校章

一九三八年(昭和十三年)その広島高等学院が廃止(広島高等予備校は一九九一年に廃止)になり「広島電気学校」が設立されました。
【広島電気学校の校章】



校章

一九四八年(昭和二十三年)広島電気高校の専門部を「広島電機専門学校」に改称。
同年、学制改革により「広島電機高等学校」に移行開校。電気科を置く。いわゆる「電高」と広く呼ばれた時代です。

一九五六年(昭和三十一年)電気科は、一般コースと通信コースに、機械科は、一般コースと自動車コースに分かれました。



校章

その後昭和三十五年安芸郡船越町に鼓浦女子商業専門学校設置、工業計測科、工業経営科、普通科等が設置又は統廃合され：
一九六七年(昭和四十二年)「広島電機大学」が新設され、その二年後「広島電機高等学校」が「広島電機大学附属高等学校」に改称されました。
この校章は平成十一年四月、現在の「広島国際学院高等学校」と改称されるまで多くの在校生が親しんできた校章です。



校章

現在の広島国際学院高校校章



軟式野球部

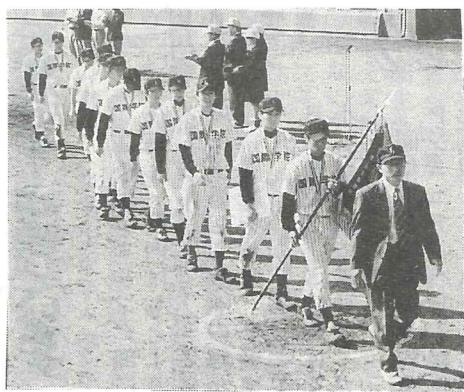
創部六年 県大会優勝の偉業

本校軟式野球部は創部三年目より県大会に出場し、六年目にして十三年度県大会において優勝を果たしました。

野球は強いからといって必ずしも優勝できるものではないことがわかりました。何回も遠征を繰り返し、経験を積み自信を持つことに加え、本番で試合の運び方を考え、ピンチを跳ね返す強い精神力を持たせ、運や偶然も見方にしていかなければ優勝の二文字には到達しないものと痛感しました。

これに少しでも近づけるため試行錯誤しているわけですが、主力の三年生は徐々にではあります。選手自信が考えながら野球をしてきているようです。只、今ひとつ大きな課題があります。それは精神力です。強豪とぶつつかると、自分からコケて行く感じが見受けられます。

閉会式・優勝旗と共に入場行進



信じられないようなエラーをしたり、バントやスクイズがキチンとできないのです。良い意味での開き直りが必要なのではないでしょうか？ それができるようになればもともと強くならぬでしょう。

これから一歩一歩それらを克服して行かなければならない時に来ているように思われます。

今年度の春の県大会はベスト四で第三位でした。

常勝チームにするにはまだまだ改善すべき点は多々ありますが、夏の全国大会へ向け、先ず県大会を制覇できるように一生懸命頑張りますので、先輩諸氏の暖かいご声援をよろしくお願い申し上げます。

(顧問・伊達理夫)

自転車競技部

創立初の全国制覇

念願の総合優勝に号泣のV

高校生の最高峰である全国高校総合体育大会(インターハイ)で個人・団体総合優勝を果たした。第九回三笠宮杯ツールド東北自転車ロード競技(四日間のステージレース)で完全優勝と二冠を達成した。

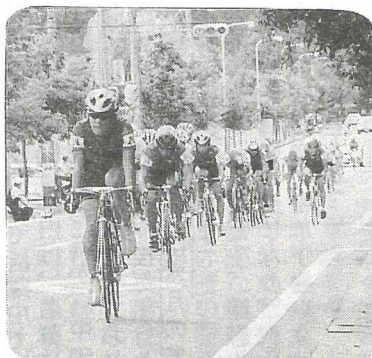
又、海外でも日本代表選手として《広島国際学院高等学校》を広くアピールした。

一方OBの西谷泰治・吉野鉄平選手(九十八年電気科卒)日大在学中(は宮城国体青年の部)四km団体追い抜きで団体タイ記録となる三年連続優勝、ポイント競技優勝、ロード競技第四位の成績を挙げた。

世界中で活躍!

西谷選手は日本代表に選考され国際大会で活躍中、近い将来オリンピックやアジア大会にも出場する

と思われ。また、鬼原 積(四十七年自動車整備科卒)元競輪選手は、日本のメカニックとしてアジア選手権やワールドカップ、アジア大会、世界選手権大会で活躍中。(成績はいずれも二〇〇一年度)



ツールド東北・先頭～4名本校選手

国際大会では...

日本代表選手としてシドニーユニアオリピックフェスティバル・チヨングーMBC国際自転車競技大会団体総合第三位。

全国大会では...

平成十三年度全国高校総合大会(ロード)競技個人・団体総合優勝。第九回三笠宮杯ツールド東北・総合優勝。全国都道府県自転車選手権大会(三種目)入賞。全日本アマチュアジュニアロード選手権(入賞)。

以上の成績結果により広島県知事賞、メイプル賞、フェニックス賞、広島体育協会賞、久保スポーツ財団賞、織田幹雄スポーツ財団賞、国際学院理事長賞と多くの賞を受賞した。

この業績は本校自転車競技部の誇りであり、選手個々の弛まぬ日々の鍛錬結果と、多くの方々のご支援とご声援のお陰である。

(監督・三宅良彦)

吹奏楽部だより

創部二十二年

県を代表する名部!

一九八〇年に八名で発足した本校吹奏楽部も、現在八十四名の部員からなる大所帯のクラブとして活動しています。

卒業式や体育祭などの学校行事に参加している他に、六月に広島郵便貯金ホールで開催する定期演奏会、八月に行われるコンクール、十月には高校総合文化祭や吹奏楽まつり、十二月にはアンサンブルコンテスト、そして一月には広島県内の私学が集まって開催する私学祭と一年中大忙しの毎日です。また、様々な中学校や地域からも演奏依頼があり本校のPRにも一役買っています。

吹奏楽コンクールでは、七年連続で金賞を受賞し広島県代表として中国地区大会に出場、特に昨年・一昨年は中国大会でも金賞を受賞し、全国大会まであと一歩でした。

昨年はこれまでの実績から、全日本高等学校吹奏楽大会に中国地区代表として推薦され、横浜みなとみらいホールの松舞台で演奏をしました。

全国の優秀な学校が集まり、部員達も緊張気味でしたが、一旦ステージに上がると本領を発揮、伸びやかな演奏で聴衆にアピールしました。

曲はサラサーテ作曲の「ツイゴイネル・ワイゼン」と「美空ひばりメドレー」を演奏、「ツイゴイネル」はシンホニックなサウンドと表現力を前面に、緊張感溢れるステージを、そして「美空ひばり」ではスタンドプレーをふんだんに取り入れ、中でもしやもじを使ってパフォーマンスをしたのが好評でした。

最後の「川の流れるように」では合唱も飛び出し、客席へなだれ込んで幕となりました。結果は「連盟理事長賞」を受賞でき、部員一同満足して横浜を後にしたのです。

とは言え、全国にはまだまだ凄いい、素晴らしいバンドがあることを目の当たりに実感し、現在はよりよいサウンドを求めて休日返上で練習に励んでいます。

どうかこれからも、国際学院吹奏楽部に対し、ご鞭撻とご理解、そして応援をよろしくお願い申し上げます。

(吹奏楽部顧問・中島洋治)



聴衆を魅了した演奏会

本年度定期演奏会

★日時 六月九日(日)

★開場 十三時三十分

★開演 十四時

★場所 広島厚生年金会館ホール
・関係各位のご来場をお待ち申し上げています。

獣神サンダー・ライガー

卒業生です！頑張っています

在校中レスリング部に在籍し、県内はもとよりインターハイ・国体にも度々出場し、数々の輝かしい成績を残し、卒業後一九八九年四月二十四日、東京ドームにおける小林邦昭戦で獣神ライガーとしてデビュー。

同年五月第九代IWGPジュニア・ヘビー級王者に輝き、自他ともに認めるジュニアの第一人者となる。

九〇年一月より獣神サンダー・ライガーと改名。



プロレスラー
獣神サンダー・ライガー

獣神サンダー・ライガー略歴

本名：山田 恵一
 卒業年度：昭和58年機械科卒
 担任：末田・長野先生
 出身地：広島市
 身長/体重：170cm/93kg
 デビュー：1989年4月24日
 血液型：AB型

翌年十二月、米国に進出しWCW世界ライト・ヘビー級王座を獲得。九二年四月、トップ・オブ・ザ・スーパーJ.R.戦に初優勝。

又、九四年四月にはジュニア・オール・スター戦（スーパーJカップ）を実現させた。

九七年一月、第三代ジュニア八冠王者に輝く。翌年、IWGPジュニア王座九度目の君臨を果たし、歴代最多防衛記録V8を樹立。

九九年にはG・サスケと組み第三代IWGPジュニア・タッグ王座に就く。

そして王者としてメキシコEMIL、米国WCWへ遠征した。同年十二月IWGPジュニア王座一度目の戴冠を果たし、新日本ジュニアの意識改革とヘビー級への挑戦を宣言。

二〇〇〇年には第三回スーパーJカップに優勝し二連覇を達成した。

その後GIに初出場し後藤を撃破、ヘビー級から一勝を挙げた。そして数々の戦績を残し王座に君臨し、〇一年六月にはベスト・オブ・ザ・スーパージュニアVIIIで大会史上初の全戦優勝を達成した。

同年八月のGI戦では小島から殊勲の白星を奪い、十一月にはE・サムライと組み、GIジュニアタッグ・リーグ戦に出場し優勝。

新日本プロレスリングの中堅選手として今後の活躍が期待されます。

教諭 中村 伸
(レスリング部・監督)

事務局よりお願い

昨年より同窓会総会・懇親会のご案内を担当の方々に手伝って頂き発送等をして頂いていますが、住所変更などの為配達不能で案内状が戻つてきます。

確実にお知らせするために住所変更

平成十三年度同窓会 総会・懇親会開催される

平成十三年度同窓会総会並びに懇親会が昨年六月九日(第二土曜日)広島ウシントンホテルで開催されました。

出席者は約一三〇名で午後六時から総会が行われ、岡田同窓会長の挨拶に引き続き、活動・決算報告、新年度の計画案が上程され、それぞれ承認された後、場所をホールに移し懇親会が開催されました。

会場では来賓席や、支部別、クラブ別、同級生別に席が設営され、再会を喜び、握手を交わす姿も見られました。

今回の懇親会アトラクションは『加納ひろし歌謡ショー』を楽しみました。

前号でも紹介しましたが加納ひろし氏(本名事崎正司・ガウスエントタレント専属)は、昭和四十二年機械科を卒業し芸能界に入り、作詞・作曲家の荒木とよひさ氏に師事し数々のヒット曲を出し、現在テレビラジオで活躍中です。

この総会のご案内は、名簿により封書でご案内のほか、中国新聞・毎日新聞広島版などでお知らせしていますが、今後毎年行われる総会及び懇親会は六月の第二土曜日に指定されました。

お知らせの同窓生、同級生の方々をお誘い合せになり、沢山の会員の皆様にご参加下さいますようお願い致します。

母校オープンスクール 公開講座や演奏会も

母校では、毎年二期期の初め中学三年生を対象として、左記のようにオープンスクール(学校見学会)を実施しています。

この催しは高校受験生を対象にして、母校をアピールし一人でも多くの中学生に「広島国際学院高校」を理解して頂き、一人でも多くの中学生に入学して頂けるよう実施しているものです。

中学生だけでなく生徒の保護者や中学校の先生方も参加されています。昨年も千名を超える参加がありました。

当日は、主催者側から学校生活の様子、募集要項の説明などがあり、その後校内見学を行います。

見学は在校生がそれぞれ案内しますが、参加者は公開講座も受講でき、クラブ活動や実習は自由に見学でき、校内の各施設も見学コースになっています。

同窓生の皆さんにおかれては、子供さんやご親戚の方もお誘い合せの上、母校をお訪ね下さいませ。様ご案内申し上げます。

★月日 平成十四年九月二十九日(日曜日)午前十時より

★場所 広島国際学院高校



【昨年のオープンスクールの模様】

学園短信

事務局書記 土居 茂

今年二〇〇二年度の入学生は四〇八名、全生徒数一二三三名でスタートしました。入学者は年々普通科志向が強まり、その比率は七五%にも達します。

男女の比率も全体で女子生徒が三六・四%になり、男子校のみを経験された卒業生の皆さんには、体育祭や文化祭の和やかな、そして派手やかな雰囲気はご想像が出来るかもしれません。

【生徒指導】
生徒を見れば学校の様子がわかると言われます。

最近の生徒は本校に限らずだらしない服装が目につきます。

風紀・生徒指導担当教員はもとより、教員が一丸となって服装、頭髪違反、登校遅刻など指導に力を入れていきます。

【進路状況】
今年の卒業生は五五四名でした。

その内進学決定者は三八二名(六九%)就職決定者は五八名となり、年々少子化が進んでいる中、大学・専門学校には入学し易くなっています。就職は長引く不況の影響を受け、極めて困難な状況にあります。

【クラブ活動状況】
前号会報でも報告をしていますが、クラブ活動が活発化しております。

昨年は軟式野球部が秋の県大会で優勝しました。

甲子園を目指す硬式野球部は、春季広島県大会では三位、男子柔道部も三位になり他のクラブも頑張っています。

是非、母校を訪問して頂き後輩を励ましてやって下さい。